

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071201133		
法人名	有限会社サライ		
事業所名	グループホームみんなの家 1F		
所在地	福岡市西区能古324-1		
自己評価作成日	令和7年1月18日	評価結果確定日	令和7年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市南区井尻4-2-1 関ビル1F	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和7年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

能古島という海や森に恵まれた環境でどこか懐かしいゆったりとした時間の中で自分のペースで過ごせます。コロナ禍以前は自然を活かした素麺流しや花見等を実施し地域の方の参加を呼びかけていました。現在は少しずつイベントを再開し皆様が楽しんで頂けるよう支援を行っています。日々の生活の中でも施設理念である「笑顔のある暮らし」を念頭に置き思い思いの生活ができる環境作りに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームみんなの家(2ユニット)」は平成17年に、自然豊かな能古島にて開設した。姪浜渡船場よりフェリーで約10分、船を降りて徒歩15分の場所にある。海岸への散歩や、四季折々の花が咲き誇るアイランドパークへのドライブができて、自然に触れ合う事ができる。コロナ禍も落ち着き、地域との交流も大事にしながら、「笑顔のある暮らし」の理念のとおり、利用者が毎日楽しく笑顔でいられて、また日々の生活が活気のあるものになるよう、職員は努めている。利用者の重度化に加え、家族も高齢となるなど、運営のスタイルが少し変わりつつあるが、能古島の地域性については、幹部職員が島内在住であることもあって、家族にも大きな不安がなく、また利用者や職員の笑い声が絶えず、常に楽しそうな様子が伺える。今後も地域に根付いた活躍が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071201133
法人名	有限会社サライ
事業所名	グループホームみんなの家 2F
所在地	福岡市西区能古324-1
自己評価作成日	令和7年1月18日
評価結果確定日	令和7年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス
所在地	福岡県福岡市南区井尻 4-2-1 関ビル1F TEL:092-589-5680 HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和7年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

能古島という海や森に恵まれた環境でどこか懐かしいゆったりとした時間の中で自分のペースで過ごせます。コロナ禍以前は自然を活かした素麺流しや花見等を実施し地域の方の参加を呼びかけていました。現在は少しずつイベントを再開し皆様が楽しんで頂けるよう支援を行っています。日々の生活の中でも施設理念である「笑顔のある暮らし」を念頭に置き思い思いの生活ができる環境作りに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1Fと同様

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果						
自己 外部	項目	自己評価		外部評価		
		実践状況(1F)	実践状況(2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者及び職員は施設理念の「笑顔のある暮らし」を共有し日々の業務に取り組んでいる。理念を常に意識できるよう、事務所や玄関に掲示している。	施設理念の「笑顔のある暮らし」を事務所や廊下に掲示している。業務に意識し理念に基づいた行動に取り組んでいる。	法人理念に加え、「笑顔のある暮らし」という事業所独自の理念があり、玄関、廊下、事務所など、事業所内の目に付く場所に数ヶ所掲示し、会議の場などで共有を図っている。職員に対しては年2回アンケート(自己評価)を実施し、それに基づく個人面談がなされている。全職員が理念を元に日々のケアを通して、実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスが5類となりイベントの再開を順次検討しているが時々感染症(コロナ、インフルエンザ等)発症みられる為様子としている。今後も地域、家族との交流の支援ができるよう計画していきたい。	新型コロナウイルスが5類となりイベントの再開を順次検討しているが時々感染症(コロナ、インフルエンザ等)発症みられる為様子としている。今後も地域、家族との交流の支援ができるよう計画していきたい。	地域とのつながりを大切にしており、下記のような交流に取り組んでいる。 ・地域で行われる夏・秋祭り、運動会、敬老会に参加(見学)をする。 ・地域の一斉清掃に職員が参加する。 ・地域の方から果物や野菜、花などをいただく。 ・中学校の職場体験の受入をする。 ・敬老の日には園児の訪問があり、プレゼントをいただく。	以前はオカリナやギターの演奏のボランティアの方の受入もされていたようです。傾聴や園芸なども含めて、再開できたら、さらに地域と充実したお付き合いができるのではないかと思います。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域中学生の職場体験を受け入れ体験を通して認知症についての理解を深めてもらえるようにしている。また、運営推進会議時にも要望や質問があれば回答し理解を深めて頂いている。	地域中学生の職場体験の受け入れ体験を通して認知症についての理解を深めてもらえるようにしている。また、運営推進会議時にも要望や質問があれば回答し理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2カ月毎に実施し施設の現状や報告を御家族、地域の方々、行政市等の意見や考えを共有し、サービスに反映できるように最善を尽くしている。また、御家族や地域の方が疑問に思われる事(救急搬送、看取り、防火設備等)を収集し資料を作成し運営推進会議時の議題としている。	運営推進会議を2カ月毎に実施し施設の現状や報告を、御家族、地域の方々、行政市等の意見や考えを共有し、サービスに反映できるように最善を尽くしている。また、御家族や地域の方が疑問に思われる事(救急搬送、看取り、防火設備等)を収集し資料を作成し運営推進会議時の議題としている。	2ヶ月ごとの定期開催が定着している。利用者家族(1〜3名)、町内会長、民生委員、包括職員、後見人、駐在所の警官らが熱心に参加している。利用者や事業所の状況の報告に対して、意見、質問などが活発に出され、サービス向上につなげている。議事録(報告書)は参加者、欠席者に郵送する。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給の入居者については、支援内容を区役所担当者へ郵送している。また、受給開始や廃止の場合においても協力体制を整えている。	生活保護受給の入居者については、支援内容を区役所担当者へ郵送している。また、受給開始や廃止の場合においても協力体制を整えている。	感染症や制度上の取扱、困難事例などは、こまめに質問や相談をしている。行政とは、事故報告、介護認定やおむつサービス申請の他、生活保護の利用者の件で担当課とのかわりもある。包括とは、運営推進会議への協力に加え、入居についての相談、成年後見制度の申請手続への協力もある。認知症サポーターを通しての協力もある。良好な関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を定期的に開催し内部研修や身体拘束の状況把握、身体拘束の見直しを行っている。転倒リスクが高く緊急性がある場合御家族へ相談し3要件を満たす場合のみ同意をとり、実施した場合は早期に身体拘束中止を担当及び身体拘束防止委員で検討している。	身体拘束防止委員会を定期的に開催し内部研修や身体拘束の状況把握、身体拘束の見直しを行っている。転倒リスクが高く緊急性がある場合御家族へ相談し3要件を満たす場合のみ同意をとり、実施した場合は早期に身体拘束中止を担当及び身体拘束防止委員で検討している。	緊急でやむを得ないと判断される場合を除いて、身体拘束をしないケアの実践に職員全体で取り組んでいる。3ヶ月に1回の身体拘束防止委員会で協議した内容については合同会議でも触れ、また職員は勉強会を通して、スピーチロックを含めた拘束についての理解を深めている。	

R7.2自己・外部評価表(事業所名グループホームみんなの家) 確定

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(1F)	実践状況(2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	動画視聴による研修に参加し報告書を作成。合同会議時に報告を行い、また身体拘束防止委員会で施設内研修も実施し情報を共有し意識を高めている。	動画視聴による研修に参加し報告書を作成。合同会議時に報告を行い、また身体拘束防止委員会で施設内研修も実施し情報を共有し意識を高めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	動画視聴による研修に参加し、報告書の回覧を行い合同会議時に報告及び内部研修を行い、各職員へ周知、共有化を行い知識の向上に努めている。また現在後見人制度を利用している入居者様については後見人との連絡、調整、情報等を把握し支援している。	動画視聴による研修に参加し、報告書の回覧を行い合同会議時に報告及び内部研修を行い、各職員へ周知、共有化を行い知識の向上に努めている。また現在後見人制度を利用している入居者様については後見人との連絡、調整、情報等を把握し支援している。	現在、制度利用中の方が複数名いる。後見人が事業所を訪れる事も多く、職員は、そうしたやりとりに加え、制度についての勉強会を通して、認識や対応を共有している。事業所には利用者から求めがあった場合に備えて必要な資料やパンフレット等を常備しており、必要時には管理者が説明して包括などへつなぐ体制が整っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人も交え、御家族に解り易く丁寧に説明を行い、契約、解約時に誤認、誤解が生じないよう細心の注意を払い、随時本人、御家族の要望を汲み取りサービスとして提供できる様に努めている。	本人、御家族に解り易く丁寧に説明を行い、契約、解約時に誤認、誤解が生じないよう細心の注意を払い、随時本人、御家族の要望を汲み取りサービスとして提供できる様に努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時にて意見や要望を集約し、合同会議時に報告し反省や改善に向け、施設運営やサービスの向上に努めている。また改善点の取り組み状況については運営推進会議時に報告としている。	運営推進会議時にて意見や要望を集約し、合同会議時に報告し反省や改善に向け、施設運営やサービスの向上に努めている。また改善点の取り組み状況については運営推進会議時に報告としている。	コロナも5類となって、家族の面会、家族との外出(外食・外泊を含む)も緩和して、喜ばれている。家族からは、訪れた際に直接、または電話等で、意見や要望を聞いている。事業所からは月1回、近況の報告(「生活状況報告書」)を兼ねた写真付のお便りを送っている。意見箱も設置しているが投函はない。利用者からは日頃の会話から意見や要望を聞き取るが、発露が困難な方からは日頃の表情の変化などから把握に努めている。	家族との交流を、更に風通しの良いものにするため、家族に対する満足度アンケート(以前行われていたと聞く)はいかががでしょう。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	合同会議時や日々の業務の中で意見や要望等を聞く機会を設け集約した内容を取締役や本社会議の議題に上げ反映させている。	合同会議時や日々の業務の中で意見や要望等を聞く機会を設け集約した内容を取締役や本社会議の議題に上げ反映させている。	毎月1回ユニット合同の会議があり、情報共有している。ケアの方法や、備品の提案等について要望を出せば速やかに反映されている。職員は、利用者について思うところを感じた時などは積極的にあげるようにしている。幹部職員が現場に入っていることが多く、日頃から相談しやすい環境にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や研修参加の要望があればシフトを考慮している。毎月の希望休や有給の利用に関しては要望をシフトに反映している。また職員の処遇改善について毎月給与に加算し年2回個人評価票を活用し賞与に反映している。	資格取得や研修参加の要望があればシフトを考慮している。毎月の希望休や有給の利用に関しては要望をシフトに反映している。また職員の処遇改善について毎月給与に加算し年2回個人評価票を活用し賞与に反映している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員は面接の際その方のスキルや人柄に重点を置き採用している。またスタッフの能力が活かせるよう、できる限り管理職が職員のサポートを行い能力を発揮できる環境づくりや勤務体制の構築に努めている。	職員は面接の際その方のスキルや人柄に重点を置き採用している。またスタッフの能力が活かせるよう、できる限り管理職が職員のサポートを行い能力を発揮できる環境づくりや勤務体制の構築に努めている。	30～70歳代の幅広い年齢層の職員が勤務しており、職員間のコミュニケーションは良好である。希望休なども取りやすく、休憩時間も確保されている。資格取得に向けた支援や外部研修の案内などもされており、自己研鑽に励んでいる。職員は、自分の趣味や特技、能力を活かして(ハーモニカ演奏、将棋、魚釣りなど)、生き生きと仕事している。	

R7.2自己・外部評価表(事業所名グループホームみんなの家) 確定

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(1F)	実践状況(2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者に対する人権を尊重する為に施設内外の研修を通じて言葉使い、態度、行動について職員等に入居者、家族、職員同士に対する尊重を考慮し日々の業務に取り組んでいる。	入居者に対する人権を尊重する為に施設内外の研修を通じて言葉使い、態度、行動について職員等に入居者、家族、職員同士に対する尊重を考慮し日々の業務に取り組んでいる。	認知症高齢者の理解や、虐待防止などについては年間計画を元に勉強会(管理者が資料を作成する。動画視聴も行う)を実施して、啓発に繋げている。外部研修はリモート(zoom)で行う。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個人のスキルを把握し研修の参加を促している。研修後は会議時に報告共有し研修資料はスタッフが閲覧できるようにしている。年間内部研修計画にて全スタッフのスキルアップへ繋げられるよう努めている。	職員個人のスキルを把握し研修の参加を促している。研修後は会議時に報告共有し研修資料はスタッフが閲覧できるようにしている。年間内部研修計画にて全スタッフのスキルアップへ繋げられるよう努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区、早良区のグループホームの情報交換会に定期的に参加し勉強会や研修会等を企画し施設間の協力体制作りや情報交換に取り組んでいる。	西区、早良区のグループホームの情報交換会に定期的に参加し勉強会や研修会等を企画し施設間の協力体制作りや情報交換に取り組んでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事や不安な事を傾聴しゆっくりと時間を掛け信頼関係を築いている。また、安心した生活が送れるように話しやすい環境作りにも配慮している。	本人が困っている事や不安な事を傾聴しゆっくりと時間を掛け信頼関係を築いている。また、安心した生活が送れるように話しやすい環境作りにも配慮している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談を行い家族の困っている事、不安や要望を傾聴し安心して頂けるように努めている。またサービス導入後も相談内容の進捗状況や様子を報告している。	入居前に面談を行い家族の困っている事、不安や要望を傾聴し安心して頂けるように努めている。またサービス導入後も相談内容の進捗状況や様子を報告している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、御家族のおかれている状況を理解し各担当者や役職とその時点で何が求められているかを見極め可能な限り支援している。	本人、御家族のおかれている状況を理解し各担当者や役職とその時点で何が求められているかを見極め可能な限り支援している。		
20		○本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の保有能力を確認し協力して頂けること(お盆拭き、洗濯物たたみ、新聞折り等)は手伝って頂きお互い支え合い協力し信頼関係を深めている。	本人の保有能力を確認し協力して頂けること(お盆拭き、洗濯物たたみ、新聞折り等)は手伝って頂きお互い支え合い協力し信頼関係を深めている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子を面会時や生活状況報告書、運営推進会議で報告している。また、施設行事には可能な限り家族の参加を促し本人と家族が触れ合える機会を作り、共に本人を支えていく関係作りに努めている。	日常の様子を面会時や生活状況報告書、運営推進会議で報告している。また、施設行事には可能な限り家族の参加を促し本人と家族が触れ合える機会を作り、共に本人を支えていく関係作りに努めている。		

R7.2自己・外部評価表(事業所名グループホームみんなの家) 確定

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(1F)	実践状況(2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の面会及び電話の対応をしている。施設行事も順次再開し、今後は家族や地域の方々を招待し社会的交流の場となるよう支援していく。	家族や知人の面会及び電話の対応をしている。施設行事も順次再開し、今後は家族や地域の方々を招待し社会的交流の場となるよう支援していく。	現在も感染対策には注意を払っているが、面会、外出(外食・外泊を含む)の制限は緩和しており、そんな中で、馴染みの知人や近所の方の来訪への対応や、電話の取次ぎや発信などの支援などを適宜行っている。これまでの馴染みの関係が途切れさせないようにしたい、という思いは強い。	コロナ禍もあって、全利用者が訪問理美容を利用しており、それが新しい馴染みになってはいるが、以前は、家族が行きつけだった美容室にお連れしていたこともあった、と聞く。家族に提案をすることで、家族と一緒に馴染みの場所を訪れる機会が増えたら良いと思います。
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士会話が弾まず、一方的だったり会話が聞き取れず困っている時は、職員が仲介し会話が楽しめるように支援している。	入居者同士会話が弾まず、一方的だったり会話が聞き取れず困っている時は、職員が仲介し会話が楽しめるように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所のサービスを受けられる際には、アセスメント、ケアプランの情報提供を行い今後のサービスがスムーズに実施されるよう連携を図り、ご家族から問い合わせ、相談があった場合はフォローし支援している。	他事業所のサービスを受けられる際には、アセスメント、ケアプランの情報提供を行い今後のサービスがスムーズに実施されるよう連携を図り、ご家族から問い合わせ、相談があった場合はフォローし支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の症状が比較的軽い入居者は解りやすい言葉かけやジェスチャーを交え直接意向の確認を行っている。意思の疎通や意向の確認が困難な入居者は家族、主治医、介護職とで本人の意向に寄り添って検討を行っている。	認知症の症状が比較的軽い入居者は解りやすい言葉かけやジェスチャーを交え直接意向の確認を行っている。意思の疎通や意向の確認が困難な入居者は家族、主治医、介護職とで本人の意向に寄り添って検討を行っている。	入居前のアセスメントは、管理者やケアマネジャーが本人・家族からこれまでの生活歴・馴染みの暮らし方・要望・不安なことなどを聞き取り、把握に努めている。思いを表出することが難しい方には、表情・仕草・何気ない言葉などから思いをくみ取り、本人本位に検討している。ケアプラン更新時や状況が変化した際には、計画作成担当者がアセスメントの更新を行っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時は本人への聞き取りのアセスメントを行い、家族・前任ケアマネ・かかりつけ医・各関係者からの聞き取りや各書類を参考にこれまでの生活状況を把握するように努めている。	入居時は本人への聞き取りのアセスメントを行い、家族・前任ケアマネ・かかりつけ医・各関係者からの聞き取りや各書類を参考にこれまでの生活状況を把握するように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者の生活リズムや特徴を排泄や食事余暇時間の過ごし方などから、有する機能や能力を観察し排泄の介助、食事の介助、歩行付き添いあらゆる場面で支援を行っている。	各入居者の生活リズムや特徴を排泄や食事余暇時間の過ごし方などから、有する機能や能力を観察し排泄の介助、食事の介助、歩行付き添いあらゆる場面で支援を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のカンファレンスや朝夕の申し送り時に課題抽出と支援方法の問題点を検討し、家族・主治医・介護職各関係者で意見やアイデアを持ち寄り変化する意向や様子に沿う介護計画を作成している。	月一回のカンファレンスや朝夕の申し送り時に課題抽出と支援方法の問題点を検討し、家族・主治医・介護職各関係者で意見やアイデアを持ち寄り変化する意向や様子に沿う介護計画を作成している。	モニタリングは3ヶ月ごとに計画作成担当者が、介護記録やケアプラン実施表を確認しながら、作成している。各ユニットの計画作成担当者が随時～1年ごとにプランを見直し、その際担当者会議を開催し、本人・家族の他、医師らからわかる職種の人々等からも口頭や書面により意見を集約している。現場からの意見も踏まえ、評価・課題分析を行い変化を見逃さないようにして、現状に即した介護計画を作成している。	

R7.2自己・外部評価表(事業所名グループホームみんなの家) 確定

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(1F)	実践状況(2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、ケアプラン実施表、看護記録を基にサービス担当者会議を開催し、課題について職員間で情報を共有し実践を振り返り介護計画の見直しを行っている。	介護記録、ケアプラン実施表、看護記録を基にサービス担当者会議を開催し、課題について職員間で情報を共有し実践を振り返り介護計画の見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の症状の変化によって生まれるニーズの変化をいち早く察知することで、家族や各関係者の意見を取り入れ新たなサービスの展開を検討している。	本人の症状の変化によって生まれるニーズの変化をいち早く察知することで、家族や各関係者の意見を取り入れ新たなサービスの展開を検討している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍より地域行事への参加はほとんどできていない、地域住民も高齢化し差し入れも少なくなっている、地域資源の活用は今後の課題である。	コロナ禍より地域行事への参加はほとんどできていない、地域住民も高齢化し差し入れも少なくなっている、地域資源の活用は今後の課題である。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望を取り入れかかりつけ医との信頼関係を構築できるように支援している。特変時は、かかりつけ医に相談し専門医が必要な場合は他科受診の支援をしている。	かかりつけ医との関係が維持できるようにサポートを行っている。また、安定した医療が継続できるように、かかりつけ医から往診医への移行の説明があれば情報の支援をしている。	協力機関の医師による訪問診療があり、適切な医療が随時受けられる体制が整っている。希望があれば、以前からのかかりつけ医を自由に継続できる。他科受診は、基本的に家族による通院とし、事業所が付添を行う。日常的な体調管理や緊急時の対応を含めて、職員間でも情報を共有し、家族への報告も適切に行っている。家族の安心につながっている。なお、施設長ら幹部職員が島内在住であることから、緊急時にも連絡がつきやすく、対応がスムーズに行われている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変に気付いた時点で施設看護師に報告し現状確認後必要に応じて往診看護師へ報告を行い指示を仰ぎ適切な医療が受けられるよう介護、看護が連携して支援を行っている。	入居者に医療的、心理的变化がみられる時には施設看護師や往診看護師へ報告し介護、看護が連携で支援を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際には入院先の医師、看護師、MSWと情報を共有し退院後の生活に安心が得られる支援を行っている。家族がいる方は状況を確認しながら支援を行っている。	入退院の際には入院先の医師、看護師、MSWと情報を共有し退院後の生活に安心が得られる支援を行っている。家族がいる方は状況を確認しながら支援を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所であることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者が重度化した場合には、かかりつけ医や往診医、家族、職員とカンファレンスを行いその都度家族の意向を確認し入居者が最期まで人間らしく尊厳を保ち安らかな死期を迎えられるように、ケアに努めている。入居の際には、「看取り介護指針」を提示し看取り介護を視野に入れた支援の説明を行い同意を得ている。	入居者が重度化した場合には、かかりつけ医や往診医、家族、職員とカンファレンスを行いその都度家族の意向を確認し入居者が最期まで人間らしく尊厳を保ち安らかな死期を迎えられるように、ケアに努めている。入居の際には、「看取り介護指針」を提示し看取り介護を視野に入れた支援の説明を行い同意を得ている。	希望があれば最期まで支援する「看取り介護指針」を定めており、利用開始時に説明して書面にて同意を得ている。早い段階から家族や医師と話し合いを重ねて方向を決め、看取り対象となった時には改めて同意書をもらう。職員は、研修などで認識を深め、個別の申し送りなどで情報共有をする。看取り後には職員で振り返り(反省会を兼ねた、振り返りのカンファレンス)を行い、施設長、管理者は職員のメンタル面への気遣いも忘れない。これまでも多数の方の看取り支援を行ってきた。	

R7.2自己・外部評価表(事業所名グループホームみんなの家) 確定

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(1F)	実践状況(2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時や緊急時の連絡対応方法についてマニュアルを作成している。避難訓練時にAED訓練を行い消防署職員の指導を受けている。また、応急手当、初期対応の訓練を行い全職員が対応できるよう努めている。また、新型コロナウイルス感染症マニュアルも作成し感染予防方法や感染者発生時の対応手順を周知している。	事故発生時や緊急時の連絡対応方法についてマニュアルを作成している。避難訓練時にAED訓練を行い消防署職員の指導を受けている。また、応急手当、初期対応の訓練を行い全職員が対応できるよう努めている。また、新型コロナウイルス感染症マニュアルも作成し感染予防方法や感染者発生時の対応手順を周知している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時や災害時の対応マニュアルを作成している。年2回日中、夜間帯を想定し消防署の指導を受け避難訓練を実施している。	緊急時や災害時のマニュアルを作成している。年2回日中、夜間帯を想定し避難訓練を消防署の指導を受けて定期的実施している。	災害対策のマニュアルは完備、BCPも策定、適宜見直しをしている。年2回、夜間想定を含めた火災の避難訓練を西区の消防団の協力のもとで行い、救急対応、運搬や消火器使用方法などの認識の向上を図る。なお、用水路が詰まって、水が流れ込んできたこともあったが、すぐに改善されている。備蓄は水・食料(レトルトや缶詰など)・排泄用品など利用者全員3日分を確保している。	訓練において、地域住民や利用者家族の参加だけではなく、運営推進会議や家族会などの場、もしくは通信などで、訓練を行っていて万全な体制で臨んでいることを報告をして安心してもらうと同時に、万一の場合の協力をお願いすることを、軌道に乗せたいかがでしょう。また、以前は地域の避難訓練に職員が参加していたとも聞く。今後機会があったら、出席してみたいかがでしょう。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格や尊厳を尊重しプライバシーを損ねない言葉遣いや対応を職員全体で周知し取り組んでいる。	入居者の人格や尊厳を尊重しプライバシーを損ねない言葉遣いや対応を職員全体で周知し取り組んでいる。	接遇やプライバシー保護等の勉強会を定期的実施している。日々のケアの中で、方言を交えることや、馴れ馴れしくならないようにすることを含めて、言葉遣いについては利用者の尊厳を保つよう配慮している。トイレ介助の際には必ず扉を閉める等、羞恥心に配慮したケアも取り組んでいる。気になった際は、その都度、幹部職員が指導し、職員同士でも注意し合っている。個人情報の取扱について、一般的な写真等の利用(肖像権)については家族より同意を得ている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の意思を尊重し趣味、嗜好品を把握する事で入居者自ら選択、決定できるように働きかけている。また、意思表示の難しい方は日頃より表情や仕草を観察し読み取り対応できるよう気を配っている。	入居者の意思を尊重し趣味、嗜好品を把握する事で入居者自ら選択、決定できるように働きかけている。また、意思表示の難しい方は日頃より表情や仕草を観察し読み取り対応できるよう気を配っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調やペースを把握しそれに合わせた生活が出来るように支援している。意思決定出来る方はできる限り本人の要望に沿った暮らしを心掛けている。	本人の体調やペースを汲み取りそれに合わせた生活が出来るように支援している。意思決定が出来る方は、できる限り本人の要望を活かした暮らしを心掛けている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを尊重しその方にあった服装や整髪の身だしなみを支援している。また、訪問理美容を隔月で依頼し清潔感を保っている。	本人の好みを尊重し個々を大切にした支援を行っている。また、訪問理美容を隔月で依頼している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の保有能力に合わせて食べやすく刻んだり、ミキサーなどで提供の仕方を変えている。また、嚥下状態が悪い方には飲み物にトロミをつけるなど工夫をしている。準備や配膳は難しいが、保有能力に合わせてお盆拭き等を手伝ってもらっている。	入居者の保有能力に合わせて食べやすく刻んだり、ミキサーなどで提供の仕方を変えている。また、嚥下状態が悪い方には飲み物にトロミをつけるなど工夫をしている。	食材業者による献立の物を、各ユニットにて、利用者の嗜好や食べやすさに配慮、調理方法の工夫やアレンジをして提供している。栄養バランスの取れた食事を提供するとともに、各利用者の嚥下状態に合わせた形態(刻みやミキサー、トロミ付も可)に対応している。近隣からの頂き物が食卓を飾ることもあるが、事業所の畑は猪の被害が大きく、作物の生育は難しい、とのこと。特別食で、外注の弁当を手配する事もある。簡単な盛り付け、テーブル拭きなど、利用者も職員と一緒に、行う。職員は別でそれぞれが準備した物を取るが、見守り介助を通して、食事を楽しんでもらえるよう努めている。	

R7.2自己・外部評価表(事業所名グループホームみんなの家) 確定

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(1F)	実践状況(2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食サービスにて栄養バランスの管理、一人一人の状態に合わせた食事形態、量を提供し支援を行っている。入居者個々の食事摂取量や水分摂取量を記録し栄養状態を確認している。	配食サービスにて栄養バランスの管理、一人一人の状態に合わせた食事形態、量を提供し支援を行っている。入居者個々の食事摂取量や水分摂取量を記録し栄養状態を確認している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人に適した物品を使用して口腔ケアを行い残渣物の除去と口腔内の状況を把握し支援している。必要性がある方は、訪問歯科を依頼し清潔保持に努めている。	入居者の口腔内の状況を把握し介助により支援を行っている。また、必要な方には訪問歯科や歯科受診にお連れし、清潔保持のケアを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表や記録を確認する事で個々の排泄パターンに合わせた声掛け、トイレ誘導を行う事でトイレでの排泄を促し自立に向けた支援に繋がっている。またおむつの変更等は、ミーティング等で話し合いその方に合った物を使用している。	排泄チェック表や記録を確認する事で入居者の排泄パターンや習慣を把握している。ポータブルトイレが必要な方は、居室に設置し安心して排泄できるよう支援している。	車いすの介助が十分な広さを有するトイレがあるが、居室でのポータブルトイレの使用もある。排泄チェックに基づき、職員は確認しながら、利用者それぞれのタイミングを把握して誘導の時間を変えるなど、職員同士の改善の話し合いに役立っている。失禁なくトイレで排泄がうまくいった事例等も個別に申し送りで報告している。情報共有しながら、トイレにて自立した排泄に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつ時に果物、芋、乳製品などを取り入れ提供し便秘予防に繋げている。排便困難な方は、主治医に相談し緩下剤で排便コントロールしている。	出来るだけ食物繊維や乳製品を取って頂く為食事やおやつに提供している。排便困難な方は、主治医に相談し緩下剤で排便コントロールしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴可能となっているが、入居者の状況に合わせて希望に沿えるように配慮しつつ拒みがみられる方には、声掛けや誘導方法を工夫し無理に勧める事はしないようにしている。浴槽内に入る事が困難な方は、シャワー浴を実施し清潔保持に努め、気持ちよく入浴して頂けるよう支援している。	毎日入浴可能となっているが、入居者の状況に合わせて希望に沿えるように配慮しつつ拒みがみられる方には、声掛けや誘導方法を工夫し無理に勧める事はしないようにしている。浴槽内に入る事が困難な方は、シャワー浴を実施し清潔保持に努め、気持ちよく入浴して頂けるよう支援している。	1階は家庭用、2階は少し広めの浴室で、いずれも個浴。湯は毎回入れ替えているが、残念ながら浴槽に入れない方にはシャワー浴にて対応する。週2～3回の入浴を基本としているが、利用者の希望や体調に配慮しながら柔軟に対応している。拒まれた際も無理強いはず、タイミングが合う時に提供し、清潔な状態が保てるように支援している。浴室、脱衣室の温度にも注意を怠らない。職員は、コミュニケーションの場と捉えて、楽しいひとときになるよう努める一方で、皮膚観察や身体状態のチェックも欠かせない。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の状況により、午前と午後居室での臥床ができるように環境を整えている。また、安眠の対応として照明の明暗や居室の室温、寝具の調整を行い精神的に落ち着けるよう支援している。	入居者の状況により、午前と午後居室での臥床ができるように環境を整えている。また、安眠して頂けるよう照明や室温に配慮している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の介護記録に薬情を綴り副作用、用法、用量について確認ができるようにしている。変更がある時には、記録に記入し全スタッフが周知徹底できるようにしている。また、錠剤での内服が困難な方には、薬剤師確認の元粉碎して提供している。	各個人の介護記録に薬情を綴り副作用、用法、用量について確認ができるようにしている。変更がある時には、記録に記入し全スタッフが周知徹底できるようにしている。また、錠剤での内服が困難な方には、薬剤師確認の元粉碎して提供している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が出来る範囲でお盆拭きや洗濯物たたみなど場面を設定し個々の残存能力を活かした生活が送れるよう支援している。	季節の行事や誕生日会等を企画し日頃と違った料理やノンアルコールビールを提供する事で気分転換の支援を行っている。その都度記念写真を撮り廊下に貼り出している。家族へは、生活面が分かる生活状況報告書を毎月郵送している。		

R7.2自己・外部評価表(事業所名グループホームみんなの家) 確定

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(1F)	実践状況(2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い季節には、施設近辺を散歩し車椅子の方も状況を確認して外気浴をするなど気分転換も兼ねた対応を行っている。	気候が良い季節には、施設近辺を散歩し車椅子の方も状況を確認し外気浴をするなど気分転換を兼ねた対応を行っている。	どうしても個別、もしくは数人での対応になってしまうが、近隣の散歩の他、渡船場、海岸、市場などへの外出の機会を作っている。四季折々の花が咲き誇るアイランドパークヘドライブに行く事もあり、本年は初詣にも行った。天気の良い日は、1階のテラスでティータイムを兼ねた外気浴をする(うさぎや猪を見かける事あり)こともあり、気分転換を図り、心身機能の維持にもつなげる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができなくなっている方がほとんどで施設事務所で管理している。日常生活で必要な物があればスタッフが代行で購入し領収書は出納帳に記入している。	本人が必要とする物品等があれば意思に添いスタッフが代行して買い物を行っている。その際領収書は出納帳に記入し保管している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在対象者がいないが、今後新しい入居者の方が要望された場合は、対応する。ご家族へは、生活面が分かる生活状況報告書を毎月郵送している。	本人から要望がある時は、時間を考慮し電話して頂いている。また、手紙のやり取りが継続して出来るよう支援している。家族へは生活面が分かるよう生活状況報告書を毎月郵送している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは安全に配慮したバリアフリーとし快適に生活ができるようにしている。四季が分かるように、節句の置物を飾り季節感を取り入れている。季節によっては光が強く、不快感を感じないようにカーテンを閉め配慮している。	共有スペースは、バリアフリーで居室のドアに名札を貼り認知しやすいよう配慮している。また、行事に関しては雛人形やクリスマスツリー等季節を感じ居心地の良い環境作りに努めている。	バリアフリーの共有スペースは、安全に配慮した造りになっており、窓からは日差しが差し込み、明るく開放感がある。ソファスペースなどで、それぞれが思い思いにゆったりと過ごしている。リビングに生けられた花や、利用者と一緒に製作した作品、行事の写真などからも、季節が感じられる。職員は温度やにおい、音などにも注意のうえ、快適に生活できる調節をしている。掃除も行き届いている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	見守りが必要な方は安全面を考慮しリビングで過ごして頂き、居室で休まれる際はマットセンサーや人感センサーを設置し安全に配慮している。	見守りが必要な方は安全面を考慮しリビングで過ごして頂き、居室で休まれる際は人感センサーを設置し安全に配慮している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が安心できる環境になるように、使い慣れた物や好みの物、家族との思い出の写真を飾り居心地よく過ごせるように支援している。	本人が安心して暮らせるように、本人の状況に応じて使い慣れた物や好みの物を設置、工夫し居心地の良い暮らしを支援している。	各居室は広めのフローリング(畳の部屋もある)で、ベッド、エアコン、カーテン、換気扇、クローゼットが備え付けられている。日中は職員が換気に努め、臭いもない。掃除も行き届いている。使い慣れて愛着のある家具(いすやテーブル、仏壇等)を持ち込んだり、思い出の写真や手芸の作品などを飾ったりしており、その中で利用者は心地よく過ごしている。職員は居室内のレイアウトを通して安全面にも気を配っている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や廊下、トイレ等日常生活のスペースに手すりを設置し居室、トイレには解りやすいようにネームパネルを貼り安全に生活が送れるよう支援している。	安全に配慮し、廊下やトイレ内に手すりを設置している。また、各居室やトイレにネームプレートを設置し、認知しやすいよう配慮している。		